

目的 わが国は古来からエネルギーを主として穀類に求め、中でも米の利用に関してはその歴史を有し、単なる食品であるばかりではなく、米作を中心に年間の生活が展開されてきた。また、米は栄養の面からも経済性の面からも優れた食品であり、主食の中心的存在を占めてきた。しかし、近年の社会状況の変化は、食料の需要供給にも変化があうわれ、わが国内では「飽食の時代」とまで云われる状況にある。即ち、食生活は多様化し、主食減少傾向に伴い副食多食型となり、健康志向はますます高まる現状である。

そこで将来、食生活の管理者を志向している私立女子大学および同短期大学等生の専門分野の指導資料とすることを目的に、米利用に関する技術の伝承や利用実態に視点をおき調査を試みた。

方法 調査対象は、私立女子大学および短期大学1年生で、食生活管理者を志向している者200人とその母親、合計400人とした。調査時期は1989年12月～1990年1月、調査方法は調査用紙を配布し、自記入法で行った。回収総数348人、回収率87%であった。

結果 母親の年齢は40～49歳が全体の75.3%を占め、わが国の時代の影響を受け、食生活意識としては、健康志向と教育志向が強い傾向が見られた。また、米食に関しては嗜好性も強く、こゝに和風メニューには顕著であり、かつ調理技術面でも自信をもちた。子供は和風メニューに加え、洋風、中国風メニューに強い嗜好性が見られた。なお、母親の食生活意識と調理技術の関係については多変量解析を行った。